



## 創刊号発行に寄せて

たまい小児科 院長 玉井友治

私たちは、日々の診療の中で沢山お話したいと思っっているのですが、限られた時間の中で皆さんになかなか満足していただけるだけのお話しは出来ていないと思います。開院当初から、「今年こそは院内通信を発行したい」と思ってきましたが、開院以来9年間、忙しさに追われてなかなか実行できませんでした。

さてこのたび、皆さんの日々の子育ての一助になればと願って、「らっこ通信」を創刊しました。院長やスタッフの考え方や想い、流行している病気の情報、当院の診療情報や小児医療の新しい情報などをお伝えし、より一層信頼されるクリニックにしていきたいと院長はじめスタッフ一同願っています。

皆様、今後ともよろしく願い申し上げます。

### ● 12月、1月の診療予定と休診情報 ●

- \* 12月11日(火)夜間は、院長が大分市小児夜間急患センターに出動します。
- \* 12月17日(月)13:45より、乳幼児栄養相談会を開催します。
- \* 12月20日(木)午後の一般診療は、院長所用のため、16時で終了します。
- \* 年末は、12月29日(土)まで通常通り診療します。
- \* 新年は、1月5日(土)から通常通り診療します。
- \* 1月12日(土)は、休日当番医の代休のため、休診します。
- \* 1月13日(日)は、休日当番医ですので8:30~17:00診療します。
- \* 1月21日(月)13:45より、乳幼児栄養相談会を開催します。
- \* 1月24日(木)午後の一般診療は、院長所用のため、休診します。

## ★ ワクチンデビューは2ヶ月になったらすぐに！

ヒブワクチン、肺炎球菌ワクチン、ロタウィルスワクチンは、生後早い時期に接種したいワクチンで、2ヶ月になったら開始できます。4種混合(DPT+不活化ポリオ)は3ヶ月になったら開始、BCGは1歳になるまでに接種できれば良いワクチンです。6ヶ月までに接種したいワクチンは3回接種が必要なものばかりですので、2ヶ月になったらすぐにワクチンデビューしましょう。

## ★ 不活化ポリオワクチンが品不足

不活化ポリオワクチン(IPV)が、今年9月から接種できるようになりました。

生後3ヶ月から7歳6ヶ月までに4回接種が必要で無料です。

しかし、政府がワクチン需要に足る十分な供給量を確認しないまま接種を開始したために、全国的にワクチンが品不足に陥っています。

現在、当院では、IPVの予約を制限させていただいています。

予約を承っているのは、ポリオワクチンを1回も接種していない方、不活化ワクチンを当院で接種しはじめた方です。

生ワクチンが1回済んでいる方は、既に基礎免疫がありますので、IPV接種を急ぐ必要がないため、予約をお待ちいただいています。

ご協力の程、お願い申し上げます。

## \*\*\*\*\* 4種混合ワクチン(DPT+IPV) が接種できます \*\*\*\*\*

今年11月から、不活化ポリオワクチン(IPV)と3種混合ワクチン(DPT)とが混じった4種混合ワクチン(DPT+IPV)が発売され、接種できるようになりました。

ポリオとDPTが1回も済んでいない赤ちゃんは、4種混合ワクチンが接種できますが、ポリオ同様、4種混合ワクチンも現在品不足ですので、4~6週間隔の計画的な接種をお願いしています。

ご協力のほど、重ねてお願い申し上げます。

(裏面へ)



## ◎ 嘔吐下痢症が流行しています。罹ったら水分補給が重要です！

嘔吐下痢症(感染性胃腸炎)が、小学校、幼稚園、保育園を中心に大変流行しています。

### ☆ 嘔吐下痢症(感染性胃腸炎)とは？

冬場に流行する胃腸炎で、主な症状は、嘔吐、腹痛、下痢、発熱です。発熱と腹痛、嘔吐で発症し、病初期には下痢症状がないこともあります。

下痢便の色は、白色、黄白色、黄土色など、白っぽくなることが多いようです。

乳幼児や高齢者では、頻回の嘔吐や下痢によって脱水症状を来しやすく、重症化することがあります。

脱水の予防には、下記のような経口補水療法(ORT)が重要です。

原因ウイルスには、ロタウイルス、ノロウイルス、アデノウイルス、サポウイルスなどがありますが、症状のある期間が比較的短く、ウイルスを殺す特別な治療法がないことから、多くは流行状況や症状から嘔吐下痢症(感染性胃腸炎)と診断します。

潜伏期間は1～2日間で、原因ウイルスが、人の手などを介して口に入った時に感染します。

### ☆ 感染の予防法は？

予防に最も大切なのは、手洗いです。特に、排便後、調理の前や食事の前には、液体石けんと流水で十分に手を洗いましょう。

便や吐物の処理をする時は、使い捨ての手袋、マスク、エプロンを着用し、処理後は液体石けんと流水で十分に手を洗いましょう。これは、ウイルスへの接触を最小限にするために非常に有効で、家族内の流行阻止に役立ちます。

ノロウイルスなどの嘔吐下痢症の原因ウイルスに効果がある消毒薬は、次亜塩素酸ナトリウム(商品名:ハイター、ビューラックスなど)です。薄めた次亜塩素酸ナトリウム液で、吐物で汚れた衣類や物品(トイレのドアノブなど)を拭くと効果的です。ただし、手の消毒には適しておらず、手荒れの原因となりますのでご注意ください。

特にノロウイルスは、100個以下の少ない量でも感染する感染力の強いウイルスです。症状がある人の便や吐物には、大量のノロウイルス(便1g中に1億個以上、吐物1g中には100万個以上)が含まれるので、取り扱いには十分な注意が必要です。

### ☆ 嘔吐下痢症時の経口補水療法(ORT)→脱水にならないために！

嘔吐が頻回でも水分を補給することは非常に重要です。

スプーン1杯ずつからでかまいません。経口補水液(ORS)を少量ずつ頻回に飲ませてください。無理に固形物を食べさせる必要はありません。なめる程度から始め、徐々に水分量を増やしていく要領です。

一気に飲むと嘔吐しやすく、嘔吐時には胃液も一緒に失われるためより脱水症が悪化する場合があります。水分補給は、時間をかけて、少量を回数多く飲ませるのがコツです。経口補水液(ORS)は、OS-1やアクアライトORSが市販されています。

嘔吐が治まってきたら、炭水化物(おかゆなどのご飯やうどんなどの麺類)から食事を開始しましょう。

### ☆ 登園、登校の目安は？

登園、登校を許可するはっきりした法的基準はありません。

主要な症状と体調が改善すれば良いことになっています。

一般的には、嘔吐、発熱がなく、下痢も水様便ではなく軟便で1日2～3回になれば、登園、登校は可能と判断して良いと考えます。